

2020年度 需要実績見込

(一社)日本塗料工業会 事務局作成

2020年度は、主要メーカーへの需要動向アンケートの結果および2020年12月までの経産省統計値から、塗料需要の実績見込を前年度比91.2%（1,162千トン）と見込む。

前年度実績値（2019年）はVOC排出実態調査から得られた推計値1,275千トンを使用。

需要産業区分	予測数量 (千トン)	前年度比	前年度比算出根拠（メーカーコメント参照）	
建 物	304	89.8%	新築は従前からの減少傾向にコロナの影響が追い打ちとなり低迷。塗替えは遅延していた改修工事が実施され、2020年度下期から回復傾向にあるが、上期の低迷を補うには至らず。	
建築資材	59	86.3%	住宅・非住宅共に着工件数が低迷し、建材やプレハブメーカーは工場稼働率を調整して出荷量が減少した。前年を大きく下回る見込み。	
構造物	69	90.8%	橋梁等インフラ保全関連の公共工事は小規模が中心。鉄塔など特定分野に需要が見られた。鉄道、プラント、軽防食分野等の民間需要はコロナの影響により、工事の延期や中止が目立ち低調。	
船 舶	103	90.6%	3Qにはコロナの影響で延期していた修繕船の入渠が増え始めた。新造船はコロナの影響による海上輸送需要の落ち込みや海運市況の悪化が従前より低調であった塗料需要を下押し。	
道路車両	新車	178	81.6%	12月は自動車メーカー8社中6社が前年同期比プラスになるなど、下期の自動車新車生産は回復軌道にある。しかし、上期減産の影響が響き、通期としては前年を大きく割り込む見込み。
	補修	30	92.6%	車の安全装備普及によるボディジョブへの在庫数減少傾向に加え、外出自粛が更なる逆風となった。大型架装分野は底堅いものの、若干頭打ち感もある。補修分野全体で昨年を下回った。
電気機械	27	86.8%	2020年度上期は需要先工場の稼働率低下により大きく落ち込み、下期は民生用、産業用共に需要が回復してきたものの、通期では前年を大きく下回った。	
機 械	43	87.9%	上期は需要先工場の稼働率低下、欧州ロックダウンによる輸出減など、市況は冷え込んだ。下期に入り建設機械や工作機械には回復の傾向が見られたが、上期の落ち込みをカバーしきれず。	
金属製品	90	91.5%	在宅勤務増加でオフィス鋼製家具需要が減少したが年度後半から回復傾向。DIY増に伴う物置・作業ブース向けや5G関連でコロナ禍特需が見られたが全体ではマイナス推移。	
木工製品	12	88.6%	コロナの影響により展示会等のイベントが減少し、関連施設や設備の塗装需要が減少。家具用需要も振るわなかった。	
家庭用	32	116.8%	巣ごもり需要によりホームセンター中心にDIY需要が拡大し、前年度比2桁台の大きな伸びとなった。	
輸 出	58	91.4%	前年よりも伸びた需要分野はあったものの、コロナによる世界的な景気低迷に加え、輸出規制や輸送コンテナ不足などの負の要因が重なり、全体に落ち込んだ。	
路面標示	63	102.3%	路面標示用塗料については地域差はあるものの、コロナの影響はほとんどなく、天候や自然災害の影響もなく順調に推移し、前年度を上回った。	
その他	96	112.0%	特定の需要先で大幅に増加したものがある一方、消費マインド冷え込みにより大幅減となったものもあり、まだら模様。官需でコロナの影響がないものもあった。	
合 計	1,162	91.2%	2020年度上期はコロナ影響により世界経済が大きく減速。下期に入り緩やかに回復傾向が続くが、緊急事態宣言の再発出もあり一進一退の状況。家庭用は巣ごもり需要によりプラス推移、路面標示用はコロナの影響は受けずプラス推移、公共性の強い建造物や橋梁など、特定分野で堅調な推移が見られた。	

2019年度出荷数量推計値1,275千トンは「2020年塗料製造業実態調査」表5-4-1の塗料出荷数量と、希釈シンナー量（「2019年度塗料からのVOC排出実態推計まとめ」のシンナー希釈率により算出）との和により求めた。

2021年度 需要予測

(一社)日本塗料工業会 事務局作成

2021年度は、公表されている政府、民間の経済見通し及び主要需要産業の2021年度の景気動向予測、並びに主要メーカーへのアンケート結果から前年度比100.6%（1,170千トン）と予測した。

2020年度需要実績見込の予測数量を1,162千トン（前年度比91.2%）として計算。

需要産業区分	予測数量 (千トン)	前年度比	前年度比算出根拠（メーカーコメント参照）	
建 物	311	102.3%	塗替えは前年の落ち込みからの反動や在宅時間増による需要増を期待。コロナ禍の所得減による購入意欲低下や宿泊業等の建設投資欲低下は継続し、新設の回復には時間がかかると見る。	
建築資材	56	96.2%	景気回復に伴うプラス推移を予想する声も多かったが、住宅需要の先行き不透明感など不安視する声もあり、全体としては対前年比マイナスの予想。	
構造物	68	99.1%	インフラ老朽化による公共工事投資を期待する声は多いが、新設を含む民間需要は厳しい状況が続くと見る。全体としては微減を予想。	
船 舶	91	88.3%	海運市況低迷や造船業における日中韓競争激化など新造船向けの落ち込みは更に深刻化予想。補修船は新ルール（GHG 削減）による入渠増を期待する。全体でマイナス推移の予想。	
道路車両	新車	192	107.9%	次年度は自動車生産台数の回復が見込まれており、塗料需要は大きくプラス推移の予想。
	補修	30	99.9%	車の安全装備の進化と拡大の勢いは続き、巣ごもり傾向も変わらず、厳しい状況を予想。
電気機械	28	105.3%	2020年度3Qごろから電機機器類の出荷は回復基調にある。前年度の反動増が期待され、2021年度はプラス推移を予想。	
機 械	45	104.7%	中国とアメリカ経済の好調が世界経済を牽引して国内外の需要回復が期待され、建設機械・農業機械・工作機械を中心とした需要増を見込む。	
金属製品	97	108.2%	先行き不透明感は依然として残るが、生活様式の変化による需要構造の変化が鋼製家具や金属建材等の塗料需要を後押しすること期待され、前年の反動増も併せプラス推移を予想。	
木工製品	12	103.2%	建材メーカーの生産量は回復傾向にあり、コロナの影響による生活様式の変化が脚物家具や木製楽器等などの特定需要の押上げに繋がることなどが期待され、プラス推移を予想。	
家庭用	30	92.7%	D I Yの習慣が定着し底堅さは維持するも、ホームセンター向け販売は昨年度の巣ごもり需要の反動減も予想される。全体としてマイナス推移を予想。	
輸 出	57	99.4%	コロナの収束により、自動車、建設機械・農業機械・工作機械等の需要が戻り、輸出は緩やかに持ち直すと予測。	
路面標示	61	97.1%	コロナの影響は受けないが大幅な増加は期待しづらいこともあり、横ばいから微増の声が多い。個別の事情もあり全体として前年度比マイナスを予想。	
その他	90	94.4%	ほぼ横ばいの予想回答は多かったが、個社事情が反映された。	
合 計	1,170	100.6%	前年度比プラス予想の回答は多いものの、非常事態宣言発出やワクチン普及などの予見は困難であり、コロナの影響について各社想定はまだら模様。コロナの影響予想は需要分野によっても異なる。全体としてはプラス推移の予想となった。	